

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)/2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カイツ株式会社高棚デバイスセンター	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県安城市高棚町新池72番1, 73番, 74番, 75番, 251番, 252番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	90 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,900 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年4月5日
敷地面積	12,605 m <sup>2</sup>	作成者	藤川 浩
建築面積	6,230 m <sup>2</sup>	確認日	2023年4月5日
延床面積	18,300 m <sup>2</sup>	確認者	藤川 浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>83%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	83%	③上記+②以外の	83%	④上記+	83%	<p>Q2 サービス性能: 5 Q1 室内環境: 3 LR1 エネルギー: 4.1 LR2 資源・マテリアル: 2.9 LR3 敷地外環境: 3.0 Q3 室外環境(敷地内): 2.4</p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	83%									
③上記+②以外の	83%									
④上記+	83%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.4</p>
LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.0</p>

3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>23.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>	
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
カッソー株式会社高棚デハイスセンター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>												
<b>1 音環境</b>												
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>												
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>												
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>												
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>												
<b>1 機能性</b>												
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	0.43	-	-	-	-	3.0
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>												
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	2.9	0.52	-	-	-	-	-	2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備			②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.0	0.48	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	3.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			バックアップスペース有	3.0	4.0	0.22		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-		-	-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40		-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			外皮の断熱材を使用	3.0	5.0	0.20		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.65	3.0	4.5	0.50		-	-	4.5
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30		-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水			節水型機器を採用	3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.9	0.63		-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地+OAフロア	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30		-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率83%	-	3.6	0.33		-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33		-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自		-	3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭				-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明無し	-	4.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

加ソー株式会社高瀬ハイセンター

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:23%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 カッター株式会社高棚デバイスセンター

計画上の配慮事項	
総合	室外環境については植栽により良好な景観を形成している。 また、LED照明を採用するなど設備の高効率化を図っている。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	バックアップスペースを確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	設備の高効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを採用している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場と駐輪場を設けている。
その他	